

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676300173
法人名	有限会社 すりい
事業所名	グループホーム ふれあい館
訪問調査日	平成 22 年 1 月 20 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 9 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4676300140
法人名	有限会社 すりい
事業所名	グループホーム ふれあい館
所在地	鹿児島県曾於市大隈町月野3486番地6 (電 話)

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年1月20日	評価確定日	平成22年3月9日

【情報提供票より】(平成22年1月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 24 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 11 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 18.8 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建て, 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円		その他の経費(月額)	9,000円(光熱費)	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無)円		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	250円	昼食	350円	
	夕食	400円	おやつ	円	
	または1日当たり円				

(4)利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数		18 名		男性 4 名		女性 14 名	
要介護1		6 名		要介護2		3 名	
要介護3		7 名		要介護4		2 名	
要介護5		0 名		要支援2		0 名	
年齢	平均	85.3 歳		最低	75 歳		最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	加藤内科クリニック ・ ハッピーデンタル・オフィス
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠くに高隈山系を望み、八合原台地の茶畑が広がる見晴らしの良い場所に「ふれあい館」が開設されている。ホームの玄関を出ると県道63号線が通っており、買い物などにも便利な所である。運営者は、長年の介護の経験を活かし「利用者本位」のケア体制を確立し、どのような方でも受け入れて行きたいという思いで運営にあたっている。ケアの充実のために、介護のプロとして職員を育てることに力を注いでいる。利用者には決められた日課はなく、一人ひとりの状態や希望に合わせて毎日を過ごしてもらえよう心を配っており、利用者の穏やかな表情から生活の満足が窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題は、緊急時や感染症のマニュアル作成、洗剤等の保管場所の確保など改善できることから改善している。利用者の権利・義務の明示については検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニット毎の計画作成担当者が、職員の意見を聞きまとめた後に運営者と話し合い自己評価を作り上げている。運営者と職員は、自己評価をケアの振り返りの機会と捉え取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的に、家族代表や地域代表、行政担当者などが出席して開催している。事業所の状況説明後に参加者の意見交換が行われ、地域高齢者の相談を受けたり、事業所での課題についての意見やアイデアを頂くことにより、会議が有意義なものになっている。地域住民から救急法を学べる機会があればという意見で、避難訓練に参加してもらい職員と共に救急蘇生法の講習を受けたりすることで、行事の協力も得られやすくなり運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見や苦情を表せる機会は、運営推進会議や面会時、電話等である。面会時などに一人ひとりに対応することで、意見や要望を言って頂けるように配慮している。遠方の家族から電話で、定期的に様子を知らせてほしいという意見を頂き、定期的に手紙や写真を送るようにするなど、意見を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームがある地域の方々との交流の他、利用者の出身地区の敬老会に参加できるようにし、地域との繋がりを大切にしている。地域の方に参加してもらい餅つきを事業所で行ったり、踊りやギター演奏、三味線などのボランティア、中学生の職場体験などの受け入れを行っている。駅伝の応援や地域のお祭りにも出かけている。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての「ゆったりと、さりげなく、あなたがあなたらしく」という基本理念を元に、自宅に居るままの環境の継続を考え対応しているが、地域密着型サービスとしての理念とは言いがたい。	○	地域密着型サービスとしての理念を、職員と話し合いながら作られていかれることを希望します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日々の生活の中に活かせるように、階段やホール、事務所などに掲示すると共に、申し送り時などに意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入していないが、地域行事の情報は運営推進会議メンバーより確認している。事業所での餅つきには地域の方の協力を頂いたり、利用者の住んでいた地域での敬老会に参加するなど、繋がりを大切にしている。ボランティアや職場体験の受け入れ、地域の方の介護相談なども行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価での改善課題は、継続中もあるが概ね改善されている。自己評価は、ユニット毎に計画作成担当者が職員に意見を聞きまとめた後、運営者と話し合いながら作りあげている。	○	全職員が評価を行うことの意義を理解し、評価を通して職員の意識を統一し、ケアの振り返りの機会となれるように、全職員が評価に取り組まれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行っている。事業所の状況、行事内容の報告の後に、事業所の課題についての意見交換などを行っている。防災訓練に参加してもらった地域代表からの意見や行事への協力体制のお願いなど、サービス向上に繋がるように取り組んでいる。		

鹿児島県 グループホームふれあい館

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は市職員と協力しあい、曾於市の連絡協議会を立ち上げ取りまとめをしている。市担当者や包括職員とも電話等で情報を交換したり、相談するなどサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書と一緒に金銭出納帳の写しを毎月送付している。面会時には健康状態や日々の様子を伝えている他、個々に作ったアルバムを居室に置いて見てもらうようにしている。遠方の家族には、計画作成担当者が写真を入れた手紙を送っている。個々に応じた報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、花見と敬老会には家族にも参加してもらい交流をしている。家族が意見を表せる機会は、面会時や電話等が多く、個々に話をすることで意見や要望を確認している。遠方の家族からの要望で、定期的に写真入の手紙を送付するようになるなど、意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人研修は両ユニットに対応できるようにしている。ユニット間の職員異動は、必要と思われる時に少人数行いが、職員は出勤したら両ユニットの利用者にあいさつをすることで利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議は行われていないが、日々の業務の中で常時伝達している他、必要に応じて研修をしている。ケアマネが職員の相談を受けている。2ヶ月に1回行われている認知症研修会には、職員が交代で出席し研修報告書を回覧し各自学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームと交流し、職員同士の相互訪問等も行っている。また、他のホームの消防訓練を見学し良い点を取り入れるなど、サービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に見学に来てもらったり、時には一緒に宿泊体験をし、納得した上で入居してもらっている。入居後は、家族の面会を多くしてもらったり、自宅に外出するなど家族の協力を得ながら安心感を与え馴染めるように工夫している。個人的に見極めながら対応に当たっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者からだんご汁の作り方や料理の味付け、野菜作りや縫い物などを指導してもらったり、時には励ましの言葉をもらったり、感謝の言葉をかけてくれるなど、人生の先輩から元気をもらいながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、観察や言葉のやりとりから本人の意向を汲み取るように努めている。職員の気づいたことは、連絡ノートに記載すると共にケアマネに直接伝え、内容によっては申し送り時にミニカンファレンスを行い検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族の意向を面会時や電話等で確認し、利用者がより良く生活するため行っているミニカンファレンス等から話し合い検討した内容を参考にする他、主治医の意見書なども取り入れ利用者本位の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは1ヶ月に1回行い、6ヶ月ごとの見直しをしている。状態に変化が生じた場合には、家族を含めた関係者と話し合い、現状に沿った計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力してくれている病院から、緊急時には往診や夜間にも対応してもらっている。通院には職員が介助すると共に、墓参りや葬儀への特別外出支援なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続している。定期健診は職員が同行し、適切な医療が受けられるように情報を提供し、状態の変化や薬の変更があった場合には、家族にも電話で連絡し共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、事業所として対応できる場合であれば、家族の意向を確認し対応するつもりであることを口頭で伝えているが、明文化されてはいない。	○	事業所として出来る事、出来ないことを明確にして重度化や終末期に伴う対応の指針を作成し、家族に説明を行い同意を得る事を希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者はプライバシーの大切さを申し送り時などに伝えているが、職員の態度や言葉遣いなどが気になった時にはその都度指導している。個人情報の取り扱いには注意を払い、記録物の保管も適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての日課は決めていないので、起床・就寝も一人ひとりのリズムに合わせて対応している。食事の後にタバコを吸う人、マニキュアや髪を染めたり洋服を選んでおしゃれを楽しむ人、好きな花を活ける人、晩酌する人などそれぞれの希望を大切に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はその日に利用者の希望を聞きながら決めており、誕生日には本人の好きなものを提供している。利用者はそれぞれの力量を活かし、野菜の皮むきや食器洗いなどを手伝っている。3箇所に分かれたテーブルでは、職員と利用者が一緒に会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に2回以上入浴できるようにしており、特に曜日や時間などは指定していない。毎日入浴する人や朝一番で入浴する人もおり、一人ひとりに応じて対応している。拒否する人には、声かけの職員を替えたり、時間をずらしたりと工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	少しづつ身体的機能の低下が見られ、以前ほど買い物やドライブの希望が少なくなっているが、日常生活の中で出来る事は喜んで行っている。洗濯物干しやたたみ、配膳やモップがけなどを役割とし、利用者同士のおしゃべりやぬり絵、歌を歌ったり、季節ごとの花見や餅つきなどで楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しに毎日行っているが、利用者が一緒に行く回数が少なくなっている。リビングからベランダに出られ、庭までスロープになっているので、天気の良い日は庭や畑に出たり、散歩に行くなどいつでも出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出るとすぐに幹線道路が通っているが、玄関の鍵やセンサーもせず、見守りのケアを行っている。現在は外出傾向の方もいないため安定している。もし、利用者が一人で外出した時でも、地域の方から連絡してもらえるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、年2回の昼間、夜間想定避難訓練を行っている。地域の方々も訓練に参加してもらい、救急蘇生法の講習を一緒に受けたり、利用者を誘導する役割を持って協力してもらっている。スプリンクラーの設置も検討中である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については把握している。水分は医師から指示があった場合などはチェックしているが、毎食後のお茶や10時、15時、夜間帯も居室にやかんやペットボトルを置いて補給できるように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは広々として、3台のテレビの前にダイニングテーブルやソファが置かれ、利用者の居場所を大切にしている。ベランダの物干し竿を低くし利用者が使いやすいようにしている他、床は転倒しても怪我が最小限に抑えられるように工夫している。1階の庭では犬が飼われ、隅にある畑では夏野菜が作られ、利用者を楽しませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には、写真入りのネームプレートが掲げられている。居室のベットは備え付けだが、使い慣れたタンスやテレビ、目覚まし時計、大切にしている家族の写真が飾られ、好きな鉢植えの花やぬいぐるみなどに囲まれその人らしい居室となっている。		